

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員 櫻井 由美

1 教育委員会

守谷市は、教育目標を「新しい時代をたくましく生きぬく人づくり」と定め、学校教育（基礎教育）では「学力と安全と成長を保障する学校教育」を、社会教育（生涯教育）では「義務と責任を果たす心豊かな人づくりを推進する社会教育」を目標に掲げている。

そして、子どもたちのためにさまざまな施策を展開し、それを推進するために各学校行事、研修会に参加していることは、現場の意見・現状を確認するなど、活発な活動がうかがえる。

2 学校教育・指導事業

(1) 教育環境の整備・充実

各小中学校に指導者用タブレット端末が教員相当数の369台を配備した。

また、全校に電子黒板を配備する予算を計上している。今後は、多様な学習形態に適応できる情報教育の推進を期待する。

施設環境としては、トイレの洋式化、松並土地区画整備事業に伴う児童増加に対応するための黒内小学校校舎の増築や郷州小学校等のトイレ改修工事等が進み、学校環境が改善されている。

通学路については、警察署や各学校関係者と連携しての安全点検が行われており、道路のカラー舗装、信号機、カーブミラーの設置されたことは、子どもたちの安全が図られている。

登下校の不審者に対する対策としては、地域住民の見守りボランティアの協力を得ての防犯対策を継続していくことが必要です。

(2) 学校教育プラン

・ステップアッププラン

確かな学力の育成取組として、学習支援ティーチャーは小学校に31名、中学校に10名が配置された。また、社会人TTは2名を配置。小学校の教科担任制の推進では2校に理科の専任教員が配置され、児童の関心が高まった。また、家庭学習の習慣も重要であるとの考えから、家庭学習のてびきを活用し、家庭学習カードの記入等を行った。これらの取組から県の学力診断テストが県の平均を上回っているという結果は、大変喜ばしいことである。ただし、個人差も見られる中で少人数加配教員や守谷独自のものである学習支援ティーチャーを積極的に活用し、継続的に指導すること

が必要です。

- ・ハートフォーヒューマンプラン

豊かな心をはぐくむ教育の推進の取組では、「あいさつ」の定着を進めています。昨今、児童生徒の登下校時にとっても気持ちの良い挨拶を受けるようになり、かなりの効果が出ていると感じている。

また、「不登校」や「いじめ」は、社会的に大きな問題である。特に「いじめ」は、学校で認知されている以上の件数があると言われている。いじめをなくすことは理想であるが、子供たちが安心して相談できる環境を作っていくことも重要です。

- ・ヘルス&フィジカルプラン

健康と体力をはぐくむ教育の推進として「食に関する指導」、小学校では全校児童での米作りの体験をする学校や給食委員によるモグモグ週間を実施するなど各学校でそれぞれ取り組んでいる。

また、体力の低下が著しい中、各校で持久走やなわとびの強化に取り組んでいる。中にはドッジボールが盛んになるように、環境整備や学級での取組強化を図っている学校もあり、力を入れている様子が見えてくる。

- ・ニュージェネレーションプラン

新しい時代に対応した教育の推進に、国際理解教育、外国語教育、情報教育、環境教育、キャリア教育の充実を図る取組がなされている。

守谷市では、早い段階から各校にALTを配置し積極的に取り組んでいた。話せる英語を目指し、教育課程外での活動も充実している。2020年の東京オリンピックでは、大勢の外国の方と触れ合うことができ、それに向けて更なる活動を期待する。

情報教育としては、電子黒板やタブレット端末を有効に活用することで授業の幅が広がっているようです。それと同時に、情報モラルの指導も重要な課題である。

- ・パートナーシッププラン

開かれた学校づくりと学校、家庭、地域などの連携への取組として、授業を公開し、学校のホームページを充実させている。また、地域社会人ボランティアの活用での授業の活性化、地域やPTAの協力を得て登下校時の安全を確保し成果を上げている。保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」は2年が経過し互いに交流することで理解が深まってきており、今後の成果が期待される。

3 給食センター事業

正しい食習慣の形成，好ましい人間関係の育成，栄養管理と健康増進などの目標に向けて献立表に色々な情報を掲載するなど様々な工夫がみられる。また，保護者の理解を深めるため，給食センターの見学会や給食の試食や人気メニューのレシピを広報もりやに掲載するなど，保護者のニーズに対応している。

食物アレルギーを持つ子どもについては，保護者，学校，給食センターが情報を共有し，2献立制を活用して，給食を食べられるような対応がなされている。地元の野菜等の食材利用や放射性物質に関しての不安があるが，きちんと検査をして，その結果を毎日ホームページに掲載し，情報の提供がなされている。

4 生涯学習・社会教育事業

市民の生涯学習の参加としては，多くが公民館の主催する講座，教室であり，平成26年度では，大野を除く4公民館でそれぞれ20前後の事業が行われ，多くの市民が参加している。また，サークル活動も盛んに行われ，この公民館も利用状況は良い。

しかし，活動している市民は限られている。広報もりやの生涯学習コーナーなどで情報提供をしているが，子育て世代や高齢者で家にこもってしまっている方々に，どのように手を差し伸べられるが課題である。

芸術・文化活動の発表の場として，夕べのコンサート，芸術祭，公民館まつりなどがあり，各サークルの中で目標を持って活動できることは大変意味のあることである。

スポーツ・リクリーション活動としては，健康スポーツフェスティバルやハーフマラソンなどの大きな事業を行っている。また，学校の体育館やグラウンドを開放して，125団体という多くの定期使用サークルに活動の場を提供し，学校，家庭，地域社会がうまく連携，協力している。

5 図書館事業

年間の市民一人当たりの平均貸出冊数が県内2位であることから，市民の活発な利用状況が見られる。そして市民ボランティアの活動により，読み聞かせ，本の修理，音訳テープ，点字本の作成，おはなし会の開催など積極的な活動がうかがえる。

また，ブックスタート事業は，親子のふれあいの支援としてすばらしい事業である。

<総括>

教育委員会全体の評価について

守谷市では、教育目標を<新しい時代をたくましく生きぬく人づくり>としている。

まさに今の時代、生きていく上で<たくましさ>が求められ、困難ではあるが、大変力強い目標となっている。学校教育において、プランとして5項目を掲げ、各校で取り組んでいる。守谷市独自の学習支援ティーチャーの配置については、きめ細かい指導での成果が上げられている。どの事業を見ても、学校・家庭・地域社会との協働、連携なくしては達成されないもので、今後も、お互いに理解を深めて推進していただきたい。

始まったばかりの保幼小中高の一貫教育「きらめきプロジェクト」ではあるが、少しずつ効果が見られており、長く継続していくことで大きな成果が得られると期待する。

全国的に人口が減少する中、守谷市は人口の増加がみられ、今後は、松並地区で戸建て及び集合住宅の販売により更なる人口の増加、子どもの増加が予想される。数年にわたり住みよさランキングの上位であることから守谷市の認知度が上がり、子育て世代の転入が多くみられる。守谷市の掲げる目標を推進していくことも、数字の上での「住みよさ」にとどまらず、本物の「住みよい街」となる一つであると考ええる。